



special feature

韓国研修

大田大学校夏期研修

座談会

econ. no.049

Hokkai-Gakuen University Faculty of Economics
2024 冬・春号

生活しながら、韓国語と韓国文化を楽しく学ぶ ～海外夏期研修大田大学校～

毎夏、韓国・大田（テジョン）大学校に本学の学生を派遣し語学研修が行われています。2023年度は8月8日から3週間の日程で16名（経済学部5名）の学生が参加しました。実際に生活しながら韓国語や文化を学んだ体験は、どのようなものだったのでしょうか。参加した学生4名（2名は寄稿）に聞いてみました。



誰でも自由に参加できる語学研修

菊田 2023年度の韓国・大田（テジョン）大学校での夏期研修は、参加した16人のうち5人が経済学部ということと、コロナ禍で休止してから4年ぶりの開催ということで、興味を持った経済学部の学生も多いと思います。どのような研修だったのか、参加した学生2人にお聞きしたいと思います。まず、引率した辻先生から研修について簡単にご説明いただけますか。

辻 語学研修なので韓国語の授業が20時間あります。8日の夜に大学の国際寄宿舎に入り、次の日すぐにレベルテストがあって、初級と中級の2クラスに分かれて授業が行われました。語学以外にも文化体験として近隣のまちなちの全州（チョンジュ）へのツアーや、チマチョゴリの着付け体験、K-POPのダンス体験などの文化プログラムが用意されています。

多田 レベルテストは上級の問題も出るのでもう難しかったです。結果、私は初級クラスになりました。

佐藤 私も初級クラス。全員で6人いました。

菊田 2人とも韓国語の授業は受けていたのですか？韓国語や語学研修に興味を持った理由も教えてください。

多田 私は受けていませんでした。小学6年生くらいから韓国が好きで、韓国語をよく聞いていたので少しわかるようになりました。研修に参加したのは、外国の大学に行く機会ってあまりないし、良い経験ができるというなと思ったからです。

佐藤 私は1年生から授業を受けています。子どものころから韓国の音楽やド

ラマが流行っていて、韓国を身近に感じていました。大学生になって韓国語を履修し、G-PLUS!（学生総合支援システム）で語

学研修の参加募集を見て「2年生だし、行くなら今かな」と思い応募しました。

菊田 韓国語の授業を受けていなければならぬという条件はないんですね。

辻 基本的には自由に参加できます。ただ、まったくハングルが読めない人には事前に学習しておくように言います。現地で生活する上でハングルが読めることは基本中の基本ですから。

旅行とは違う、研修ならではの体験

菊田 毎日の授業や食事はどのようなものでしたか？

佐藤 午前中は自由時間で、授業は午後から。授業がない日は昼に起きていました（笑）。

多田 次の日にテストがあれば単語の勉強をしていましたが、それ以外は寝ていたり、ご飯を食べたり。寄宿舎の食堂は、朝はオープンが8時半までと早くて、起きられない日は行けませんでした。

佐藤 食事はおいしいけど辛い。キムチとかカトゥギ（カクテキ）とか赤いものが必ずついてきます。やっぱり日本で食べる韓国料理と全然違いました。キムチは地域によって違うし、お店によっても違うんです。夏だったので、発酵して酸っぱいキムチを朝から食べていました。

菊田 授業はすべて韓国語で行われるんですか？

多田 初級クラスの先生は日本語も話してくれますが、中級クラスは韓国語のみで授業をしていたようです。

佐藤 授業はとても楽しかった。日常会話や、毎日の食事のメニューを聞かれて韓国語で答えるなど、難しいというより「楽しんで覚えましょう」という感じでわかりやすかったです。授業で覚えたことは今も役に立っています。

菊田 大田（テジョン）の街なかに行くこともありましたが？

多田 円をウォンに替えなくてはならなくて何回か銀行に行ったことがあります。最初は辻先生と一緒に、バスの乗り方や行き先、銀行で使う韓国語も教えてもらいながら行って、次から自分たちだけで行きました。

佐藤 大学からテジョンの街まではバスで10分くらいですが、バスの最終を逃してしまったことがあるんです。仕方なく1時間かけて歩いて帰りました…。韓国語を聞き取るのも話すのも大変だったけど、身振り手振りを交えながら話したら通じたので、意外といけるなって（笑）。

菊田 いろいろな体験をしましたね。では、実際に行って良かったこと、学びとなったことは？

多田 韓国のバスは2つ先のバス停までアナウンスするので、よく聞いていないと間違えるんですが、慣れてくると「ここで降りるんだ」とわかるようになりました。旅行で行くのはだいたいソウル。日本人や日本語を話せる韓国人も多くて、街には日本語表記がたくさんあるので韓国語ができなくても



近所の食堂でキムバブを注文



全州でレンタルした韓服を着る



大田の繁華街・ウネンドン



大田大の学生との交流会



韓国語担当の先生方と記念撮影



ドラマでも良く登場するソウルの景福宮



本場の全州ヒンバ

2024

ECON.
STUDENTS●司会
菊田 悠 先生●韓国研修担当
辻 弘範 先生●地域経済学科 2 年
佐藤 結奈 さん●経済学部 1 年
多田 なぎさ さん

困らない。でも、テジョンは日本語を話せる人が少ないし、日本語表記も全然ないので、みんなで協力し合いながら移動するのはなかなか良い体験でした。

佐藤 私は研修に1人で参加したのですが、同じ部屋で3週間一緒に過ごしたことで友だちができました。そして、先生やみんながいたからこそいろんなところに行けたのが良かったかな。

多田 授業以外で文化体験をさせてもらったことも良かった。韓国のプロ野球観戦とか、旅行だったらあまりしないようなことができて良かったです。チョンジュでは、チマチョゴリを着て写真を撮り合いながら昔風の町並みを歩きました。そうしたら、現地の人に「写真を撮ってあげる」と声をかけられたんです。並ばされてポーズまでとらされて（笑）。

佐藤 ネイティブの会話も少しずつわかるようになったよね。

多田 あと、交流事業ではテジョン大の学生と対話の機会を設けてくれて、グループを作って話をしたのですが、みんな日本語専攻で、こっちが恥ずかしくなるくらい日本語が上手だったのも印象的でした。

3週間の韓国生活で得たもの

菊田 研修は自分にとってどんな意義があったのでしょうか。今後の大学生活で生かせることを得られましたか？

佐藤 私は初めての海外でした。日本語がないところで生活すること自体初めてで緊張したし、トイレの使い方などカルチャーショックを受けましたが、驚きも含めて全部が楽しかった。1人や友だち同士で海外に行くのは不安でも、研修として大学の人で行けば不安材料が少なくなります。また、今回チャレンジしてみたことが、これから部活や就職活動にも生かせると思っています。

多田 あまり自信のない韓国語を実際に使うのは怖かったんですが、3週間も生活していると「使ってみよう」という気持ちになりました。また、研修に行く前は人に話しかけるのが苦手なほうだったんですが、向こうで友だちもできたり積極性が身についたと思います。2年生からはしっかりと韓国語の授業を取る予定です。

菊田 また韓国に行きたいですか？

佐藤・多田 もちろん行きたいです。本当に楽しかった！

— 大田（テジョン）大学校での夏期研修のねらい、目的 — 辻 弘範 教授

本学と大田大学校は1999年2月に交流協定を締結しました。大田大学校での夏期研修は（原則として）毎年実施されてきました。

夏期研修で最も重視しているのは、日本のテレビやネット上では見えにくい、活きた韓国語が話される空間に身を置いて、実際に韓国語で会話をしながら問題を解決してゆくという「生きぬく力」の育成です。テジョン市内では日本語がまったく通じませんので、たとえば寄宿舎近くのコンビニで物を買ったり、市内バスに乗って目的地に行ったり、食堂に入って何か料理を注文したりする時には、すべて韓国語で行わなければ「生きてゆけない」のです。学生たちにおける韓国・朝鮮語の位置づけが、韓国の好きなドラマやアイドルに触れるための言語から、「生きぬく」ためのスキルとしての言語へと変わってくれることを期待しています。

また、参加者の中には、夏期研修への参加が初の海外在住という学生や、初めて親元から離れて暮らすという学生も少なくありません。3週間の研修を通して、語学の面だけでなく人的な面でもかなりの成長が見られますので、それだけ「長すぎず・短すぎず」絶妙な長さだと考えています。この他、本学からは毎年数名が交換留学生として大田大学校に派遣され、10ヶ月間（大田大の2学期間）現地で学ぶ留学制度もあります。

齋藤 祐来 経済学科2年

今年は4年ぶりに開催されるということで、興味を持たれた方も多かったのではないのでしょうか。実際に韓国を訪れてみて、たくさんのことを学び、経験することができました。

韓国では、韓国語での授業や、野球観戦、伝統文化の体験などを行いました。韓国の伝統を感じられる人気の観光都市である全州では、チマチョゴリを着る機会も設けてくださり貴重な体験となりましたし、その他にも、ソウルツアーなどを通して韓国の伝統料理や伝統的な文化を体験しました。初めて訪れる国・都市で計画通りに行動することは少し難しかった部分もありましたが、その分他国を知るきっかけにもなりました。

大田夏期海外研修のみに関わらず、他国で生活し、他国を観光することは自身の視野を広げるきっかけにもなりますし、人生においてとても良い経験となると思います。是非、来年度の海外研修に関心がある方は積極的に参加してみたいと思います。

岩澤 結実 経済学科2年

私が留学しようと思った動機は高校生の頃から韓国に興味があり、大学1年生から2年生まで韓国語の授業を受講して実際に自分で現地の言語、文化に触れてみたいと思ったからです。

実際に行ってみて思ったことは韓国の人々はサービス精神が旺盛だと思いました。ご飯を食べに行った時にたくさんのおかずを無料で出してくれたり、おかわり自由や、ジュースをサービスでつけてくれるなど心が温くなりました。しかし、買い物では店員さんはせっかちな人が多く現金で払うとイライラしているのが伝わってきたので、キャッシュレス決済をおすすめします。

また、夏の韓国は日中の日差しがとても強く日傘を持ち歩くのがいいと心から思いました。日焼け対策はもちろん、熱中症対策にもなったので必要不可欠です。そして、大田大学校は森の中にあるので色々な虫がたくさんいて苦戦しました。虫除けスプレーや虫刺され用の薬を持参していくのもおすすめしたいと思います。布団にもダニがいて足が痒くなり腫れたので、ダニ避けシーツの持参もおすすめしたいと思います。

032
OG 訪問
働きウーマン



接客業から IT 業界へ転職。 新たな興味が広がっています。

株式会社 ALLSEED テスト検証

上杉 沙矢香さん

うえずぎ さやか

●「2 部に行く理由しかない」

姉が北海学園大学 2 部の卒業生で、授業料が 1 部の半額で同じ内容の講義が受けられ、しかも時間を自由に使える姉の姿を見て、「これは私も行く理由しかない」と 2 部進学を決めました。

大学時代は週 6 日間、朝から夕方までアルバイトし、17 時 45 分から授業に出席、アルバイトが休みの日は昼間ゆっくり趣味のカラオケや写真撮影に没頭するなど、時間を有効活用できました。入学当初は生活リズムが変わって少し苦労しましたが、すぐに慣れたので大丈夫。自由な時間がたくさんあって、何をしようか考える機会が多く、とても楽しく過ごしました。

ゼミでは浅妻先生のもと、高校生の頃から興味



学生時代地域研修で訪れた安平町で、浅妻先生、ゼミの仲間と

があった地域における再生可能エネルギーについて研究しました。再生可能エネルギーに積極的に取り組む登別市や安平町を訪問し、担当の方々から直接お話を聞き、貴重な経験ができたと思います。それから身近な問題として個人での省エネに興味を持ち、卒業論文は「単身世帯における省エネ効果の検証」をテーマにしました。先生のアドバイスを受けてたくさん本を読んだり、自宅の消費電力を検証したり、がんばって書き上げた論文で「第 2 回江川賞（※）」を獲得することができました。

何かに興味を持ち、自分から計画を立て、実行するゼミの活動は、卒業して仕事をする上でも非常に役立っていると感じます。また、2 部は定員が少ないこともあり先生との距離が近く、年上の同期生も多かったため、いろいろな人と話すコミュニケーションの力が養われました。

●アルバイトの経験を生かし、接客の道へ

アルバイトでスーパーや写真プリントショップの接客スタッフを経験し、人と接する仕事が得意だったので、4 年次の就職活動では接客業、なかでもホームセンターとドラッグストアに絞って採用試験や面接に臨みました。業種を絞ったのは、

NEWS 1 | 2023 年度フロンティア講座開催される 2023 年 11 月 9・10 日

株式会社トクイ印刷代表取締役の徳井孝生さん、NPO 法人北海道エンブリッジ代表理事の浜中裕之さんをお迎えし、2023 年度経済学部フロンティア講座が開催されました。講師の徳井さんからは「3 つの磨きどころ」「実践のやり方 8 条案」など経営者が実践すべき項目の中からの大学生にとっても有用であるアドバイスをいただきました。また、地下鉄軌道検査などちょっと変わった学生時代のバイト経験などもお話いただき、学生生活を充実させるヒントを受け取ることができたのではないのでしょうか。浜中さんの講演では丸水札幌中央水産株式会社の石原一平さんを特別ゲストに加え、北海道エンブリッジで現在募集中の「水産の担い手を発掘する広報企画プロジェクト」を紹介していただきました。「次世代の皆さんの力を求む」といったメッセージは聴講した学生に、そのうちではなく今できることがあるかもしれないという気付きを与えてくれたのではないのでしょうか。（逸見）



写真上は講師の（株）トクイ印刷代表取締役徳井孝生さん。左のイラストは NPO 法人北海道エンブリッジの PR シート【<http://en-bridge.org/>】

NEWS 2 | 2023 年度卒業研究中間報告会 2023 年 12 月 9 日

2023 年 12 月 9 日に、1 部・2 部合同での 2023 年度卒業研究中間報告会（参加者 33 名）が開催されました。本学部では、4 年間の集大成として、4 年次に卒業研究を開講しています。中間報告会では、この卒業研究の途中経過をまとめて、所属ゼミ以外の学生や教員の前で報告する会です。報告時間は短いですが、「どのような研究テーマを選んだのか」、「そのテーマを選んだ理由は何か」、「どのような結論を想定しているのか」、「論文はどのような構成なのか」、について報告します。また報告後には、フロアの学生や会場担当の教員からの質問に答える時間もあります。報告会に参加することで、自身の研究について改めて振り返ったり、論理や根拠が不十分な箇所を見つけたり、他の人からアドバイスをもらったりすることができるため、その後の卒業研究の進捗にとても役に立ちます。卒業研究の提出締切は 2024 年 1 月下旬なので、あと 1 か月程でどのような卒業研究が提出されるのか、今から楽しみです。（宇土）



卒業研究中間報告会の様子





せっかく働くなら商品数や種類が多く、専門的な知識を得られる環境で働きたいと思ったからです。

就活を始めた時期からちょうどコロナ禍になり、会社説明会が中止され、面接はオンラインばかりでした。最初は会話のタイミングがつかめず大変でしたが、だんだん慣れて、第一印象を大切に、いつも以上に笑顔で話そう心がけました。そのおかげか希望のホームセンターに就職でき、園芸、インテリア、家電、木材、電動工具などの売り場を担当。小さな店舗でしたが週末は3,000人のお客さんが来店するなか、パートさんと協力し合いながら仕事に取り組みました。つけていたインカム（業務用の通話機器）が鳴り止まないほど忙しい日々でしたが、その経験があるからこそ、何ごとにも前向きに行動できる今の自分があると思います。

●新しい世界を知るため、別の職種に転職

就職後バイクの免許を取得し、バイクが一番の趣味になりました。北海道は雪で約半年しかバイクに乗れないのが残念で、「雪のない場所に行こう！」と転職を決意、仕事を続けながら就職活動を開始しました。前職とは別の職種を経験したかったので、以前から興味があった東京のIT企業から、未経験者でも活躍できるところを選び、いくつか面接を受けて現在の会社に入りました。

*写真：左上から、学生アルバイト時代のプリントショップ、新卒就職先のホームセンターでの業務、趣味のバイク、愛車ホンダカブ、現在の業務ソフトウェアの検証業務



※江川賞：北海学園大学経済学部が卒業にさいして優秀な論文を執筆した学生を顕彰するため2019年に創設した賞。

●1999年生まれ、北海道札幌啓成高等学校出身。2021年3月、本学経済学部経済学科を卒業。DCM株式会社に入社し、札幌のDCMホームマック店舗で勤務後、2023年6月から東京に転居、株式会社ALLSEEDでソフトウェアなどの検証業務に従事。

From a Distance 21 「人生に無駄なし」

●佐藤 信 [経済学部教授]

還暦も過ぎると、これまでの人生で無駄な経験など一つもなかったことに気づくようになる。

大学卒業後に最初に勤めたのは食品卸会社だった。営業マンである。仕事内容は、担当地区である湘南一帯の専門店をルート営業で回る。鎌倉の大仏や江ノ島の横を毎週のように通ったし、藤沢から小田原までの細かい路地まで覚えた。

そのときの先輩の教えは、営業は何でもできなければならない、ということだ。だから販売だけではなく、自分で特売品を決めて値引き額を設定してもよい。売れそうだなと思ったら上司に商品企画を提案することもできた。上場前の企業だったので自由度が大きかったのかもしれない。

一方、通常取引以外の方法で世の中が回っていることを知った。伝票に残らない商品サービス。得意客へのヤミ添付。具体的にはここでは書けないことが多い。「流通は暗黒大陸」とはよく言ったものである。この1年3か月ほどの民間企業での経験が自分を成長させてくれた。文字どおり体重が7kg増え、身長は1.5cm伸びたのである。体形だけではない。何よりも、営業職を通して多くのことを学んだ。会社のトップの発言や着想はさすがと思うことが多かったし、専門店の店長にも人物がいた（もちろん人間性に問題ある人々にも出会ったのだが）。

その後、いろいろあって大学院で学び研究職に就いた。流通過程の暗黒部分を経験してきたので実態調査に積極的になれない。そうはいっても理論派にもなれない。恩師はよく「僕らは調査マンだから」



写真上：調査先の元酪農家と。
写真下：学食で友人らと。右が私

ら」「理論派は掃いて捨てるほどいる」と語った。調査による新事実の発見を重視せよという意味だったのか。自分は、食料問題や協同組合を研究対象としたが、同時に大学生協の組織委員や理事を務めさせてもらった。消費税導入反対のデモに参加し、図書購入還元ポイント改悪反対の論陣を張った。

それから30年以上が経った。振り返るに、大学にはストレートで入れなかったし、学生時代は留年もした。その上、営業マンまで経験するなどやたら遠回りの研究者人生である。けれども思わぬ出会いや経験が今の自分を作り上げているのだと強く感じている。



土橋 康人 地域経済学科
准教授
どばし やすと

<略歴>

埼玉県比企郡鳩山町出身

King's College London, PhD in Political Economy

専門は国際政治経済学、英米政治経済史、財政学

主な研究業績・著書:

・『The Political Economy of Fiscal Mobilisation and Management of Sterling from 1958 to 1972』, PhD Thesis, King's College London, Department of Political Economy, 2019.

・『日本の居住保障一定量分析と国際比較から考える』慶應義塾大学出版会、2021年(共著)(第5章「イギリス—居住保障と市場の奇妙な相依存」担当)

※「図書館だより」229号の「イギリス「ホームレス紀行」へのプレリュード」もぜひ一読ください。



私の履歴書

自由と奔放の狭間で 権威に抗い、「今」を見つける

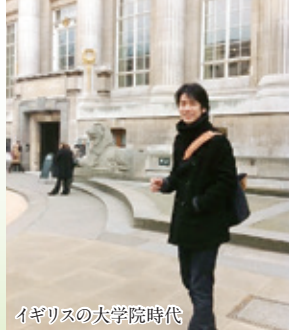
高校・大学、過去を振り返る

時間とは、掴みどころがなく切れ目のない水流のようなものです。大幅に締め切りを過ぎて、焦ってこの原稿を書いている私は、刻々と過去に埋没しているのでしょうか。それとも、文章を綴るごとに茫漠とした未来の領域へと足を踏み入れているのでしょうか。過去と未来を隔てる「今」とはどこにあるのでしょうか。過去を振り返りながら、私なりの理解とメッセージを皆さんに伝えたいと思います。

高校時代、勉強をした記憶はありません。埼玉の片田舎に育った私は、名だたるお坊ちゃんが通う高校に入学し、通学時間は2時間を超えていました。そのため、満身に部活をすることもなく、フラフラと遊び歩いていたものです。興味を持ったのは音楽。女性にモテようとバンドでギターを弾き始めました。選んだジャンルは、北欧系デスメタルでした。その一方で、世界は混迷の世紀に入ろうとしていました。テロに戦争、霞がかかった経済の先行きと鮮明になる不平等。長い通学時間を持て余していた私は、とりあえず何かを理解しようと本を貪るよ

うに読みました。英米仏獨の自由主義思想、エーリッヒ・フロムなどの社会心理学、アントニオ・グラムシなどのマルクス系政治学は、私の青春時代に大きな影響を与えました。その中で湧き出てきた問題意識、それは「権威を排除して、自由と平等をどのように達成するか」ということです。高校時代に人々を分断する格差を目の当たりにしながらも、誰にも縛られず自由を謳歌していた(と錯覚していた)私は、権威というものに吐き気を催しながら、自由と平等の調和について考えていたのです。権威は人や組織だけでなく、常識などの習慣や伝統、そして人々を屈服させ限界を課するという意味では「時間」にも宿ります。自らの限界に直面しながら、限られた時間の中で何かを理解しようともがき始めたのが高校時代であり、それは今も私の問題意識の根元に鎮座し続けています。

しかし、特殊な環境で育った私は、大学に入学する際に絶対に勉強はしないと決意していました。勉強は金にならず、不幸をもたらすものにしか見えなかったためです。また、経済学への興味もありませんでした。



イギリスの大学院時代

NEWS 3

2023 年度地域研修報告会を開催

2023 年 12 月 17 日

2023 年 12 月 17 日(日)に 2023 年度の地域研修報告会が実施されました。地域研修報告会は、本学経済学部の科目である「地域研修」の一環として行われるものです。「地域研修」では、2 年次からの専門ゼミナール単位(合同ゼミの場合もある)で現地研修を実施することで、地域が抱えている課題を発見し、その解決に取り組み、現実の経済や社会を現場から学ぶことを目的としています。現地研修から得た知見をまとめ、報告するのが地域研修報告会です。

ここ数年、コロナ禍により活動が制限されていた部分があり、地域研修も多少なりとも影響を受けていましたが、ついにコロナ禍が明け、やっと制約のない中で地域研修を実施することができました。今回の地域研修報告会では 35 グループが報告を行い、参加人数は 400 人近くに上りました。研修先は道内の地域が中心ですが、道外

(関西や山形)で実施したゼミもあります。石碑に着目した調査やアルバイト問題、オーバーツーリズムや着地型観光等の観光に着目した研修など多種多様なテーマが見られ、調査手法に目を向けても、アンケート調査やヒアリング、現地企業の方による講演など、こちらも多種多様です。それぞれのゼミのカラーが表れたテーマや研修報告になっており、質疑応答も活発になされました。自身が所属するゼミの地域研修のみならず、他のゼミの地域研修の内容に触れたことで、様々なテーマ・角度から地域を考える大変良い機会になったのではないかと思います。

最後になりましたが、地域研修の実施に際し、ご協力いただいた関係各所の皆さまに改めて御礼申し上げます。(藤田)



十中八九、経済学の諸理論は合理的な個人を前提として出発します。しかし、モテるためにデスメタルバンドに入るような非合理的な私にとっては、経済学は多様な人間が織りなす社会への理解を投げ打った学問にしか見えなかったのです（もちろん、今では違う捉え方をしていますが）。それを言い訳にして、学業ではなくアルバイトに励み、またもや遊びまわる毎日。そんな私に転機が訪れたのは、大学3年生の時でした。ゼミ試験の論文を書くために、嫌々ながら勉強を始めました。24時間営業のファミレスで、店長より長いこと店にいるのではないかといいくらい勉強したことを覚えています。入ったゼミは財政学、その中で私は金融政策について研究しました。

「イギリスの大学へ

何とか大学を卒業した私は、民間企業で働きました。しかし、頭の中にこびりついた問題意識をどうしても拭い去ることができず、もう一度勉強でもするかと思い立ち、一年で退社して大学院に入りました。戻った大学院でも財政学を専攻とする先生の下で金融について研究をしました。しかし、財政と金融の学術的な隔たりには苦勞しました。膨張する金融市場が国際関係を規定し、財政や社会へと影響を与えていく。もちろん逆向きの連関もあります。このような研究を十分に行える環境が日本には少なかったこともあり、イギリスの大学へと移ることにしました。

イギリスでは、苦渋を強いられました。

詳細は割愛しますが、いわゆるジブシーと呼ばれる人々の中で極度の貧困状態で暮らしながら、世界的権威の象徴であるイギリスの財務省やロスチャイルドに向かう大学院生は、おそらく日本人だけでなくイギリス人にとっても稀有なことでしょう。しかし、社会を「上と下」の双方から観察できたことは、その内的矛盾を把握する上で非常に有益な経験になりました。その後、妻の支えもあってイギリスの大学院での研究を終え、心身ボロボロになりながら帰国し、東京の大学で細々と燃っていた私は北海学園大学に拾われ、現在に至ることになります。

「裂け目＝今」という居住地を作る

さて、そろそろこの乱雑に散らかったつまらない話をまとめ上げる段階にきました。私の過去を顧みれば、自由と奔放を履き違えながら歩んできたと言えます。その中で苦悩や後悔もありました。エリック・ホッファーは、何かを成し遂げることができぬ者にとって、自由とは「厄介な重荷」であると冷徹に大衆を観察しました。この格言は、時に私を焦燥へと駆り立てます。しかし、過去は私を打ちのめし、縛りながらも、前へと強く押し出してきたことも事実です。なぜ、前に進むことができたのでしょうか。それは、思考を続けながら、利他的な「今」を積み重ねてきたことにあります。

移り気な「時間」は私たちを時に愛でながら、時に残忍に牙を剥きます。断片的な記憶の羅列によって構成される過去は、私

たちが置かれた現在の状況によって、その姿形を玉虫色のように変えます。不確実性と霧に包まれた未来は、不安と希望を私たちに投げかけます。ハンナ・アーレントは、この過去と未来に挟まれた「今」を、「裂け目」と呼びました。彼女は言います。私たちは、この「裂け目＝今」という居住地を作りださなければならない、と。そのためには何が必要でしょうか。それは、「思考」です。歴史を解釈し、私たちを束縛する伝統の深淵に挑戦することによって過去に向き合いながら、未来を予測し働きかけるための考察を行うことで過去と未来を分割するという思考です。「始まり」を意味する古代ローマの神であるヤヌスの二つの顔が、背を合わせながら正反対を向いているのには理由があったのです。それは、両極に位置する過去と未来に同時に対峙することによって、狭間としての「今」を作り出す。そこで思考を続ける限り、私たちは永遠に「今」の中に存在し、「時間」という気まぐれな権威に抗いながら、未来を作りかえ、人生を切り開くことが可能になるのです。

大学では多くのことを学ぶことができます。卒業後に多様な道を歩む中でも、知識を蓄え、考え続けることができます。皆さんには、常に学び、疑問を持ち、思考しながら「今」を生き、今後の世界を創造して頂きたいと願っています。

NEWS 4

1部・2部 基礎ゼミプレゼンテーション大会を開催

2023年12月12・19日・2024年1月11日

12月12・19日（1部）と1月11日（2部）に、複数の基礎ゼミナールによるプレゼン大会が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてきたこともあり、準備作業を行う各教室に以前のような活気が戻りました。グループ内のメンバー間でコミュニケーションが密にとれるようになったことは、パワーポイントや読み原稿の出来の良さに繋がっていました。

電気自動車やインバウンド、子育て支援など、近年の大きな社会的関心事にフォーカスした報告が多く、オーディエンスも熱心に耳を傾けていました。また、オーディエンスから出される質問も、良

いところに着目したものが多かったように思います。

情報通信技術の発達により、情報は一部の人間だけが発するものではなく、誰もが発するものへと変わりました。そのため、高いプレゼンテーション能力を身につけることは万人にとって必要不可欠であり、社会に出る前にしっかりと訓練を積んでおく必要があります。今回のプレゼン大会への参加によって、多くの学生たちはその最初の一步を踏み出しました。道は長く続きますが、次年度以降のゼミ活動を通じて、歩を着実に進めて欲しいと思います。（越後）





NEWS 5

地域協働フィールドワーク学内報告会を開催

2023年11月8日

地域協働フィールドワークは、学生が地域と長期間関わりながら、地域の課題や可能性を探り、主体的に課題解決を提案・実行する「現場実践型」授業です。実践の場は羽幌町・天売島で、2016年度の開始以来、8年目の活動を迎えました。これまで協働パートナーとして参画していただいていた一般社団法人・天売島おらが島活性化会議と本学は令和5年6月に包括連携協定を結び、新たな協力体制に発展しました。

この授業では、学生が協働パートナーと相談しながらプロジェクトを立て、6月の3泊4日の事前訪問を経て、8月の1週間の滞在中にプロジェクトを実行します。学内報告会ではプロジェクト成果が発表されました。

今年度の参加学生は3年生3名、2年生4名、計7名で、8月の滞在中では複数のプロジェクトが実行されましたが、メインになったのは、天売島フェリーターミナルそばにある観光売店内の交流ス

ースとしてお借りしている場所で、島民・観光客・学生が交流して、島ににぎわいを創り出すことを目的に、昼間は休憩や気軽におしゃべりできるスペースとして、夜間は焼き鳥・ソーセージ、生ビール、ソフトドリンクなどを提供する居酒屋として学生が開店し、お陰様で多くの観光客や島民の方々に来ていただきました。

学内報告会をふまえて、学生は今年度の活動報告書をまとめ、経済学部ウェブサイトで発表する予定です。また、この授業では2年間の参加を前提にしているので、1年目の参加学生は今年度の活動の反省をふまえて、来年度の活動を今から構想しています。(水野谷)



NEWS 6

2023年度経済学部による特別講義など

経済学部では、講義のほか講座、講演会など様々な事業を行っており、北海学園大学経済学部ホームページ <https://econ.hgu.jp/> でNEWS(新着情報)として情報公開しています。

おめでとうございます！

河崎秋子さん
直木賞受賞

古林英一教授「北海道経済論Ⅰ」で毎年講師としてお招きしている、本学部卒業生の河崎秋子さんが1月17日、第170回直木賞を受賞しました。今年も7月の講演が予定されています。



① 2023年7月29日	北海道経済論Ⅰ	経済学部公開講演会「足もとから見上げる北海道」を開催しました。
② 2023年11月11日	北海道経済論Ⅱ	経済学部公開講演会 「田園回帰と循環型社会の時代」を開催しました。
③ 2023年4月～24年2月	全9回開催	北海高校「総合的な探究の時間」にて経済学部教員が下記の講義をおこないました。 ・森下宏美「テーマ設定・問いの立て方」 ・歌代崇史「まとめ方・プレゼン」・榎木貴之「書き方」・水野谷武志「統計・情報処理」 ・松本広幸、宮本章史「中間発表会・学年発表会の講評」・平野研「多様性」

講演者：道内在住作家 河崎秋子氏
講演者：本学客員教授 藤山浩氏



NEWS 7

'24'25 就職活動について

【新3年生になる方へ】

夏のインターンシップが秋からの早期選考に繋がる例も多くあるようです。情報感度を高く持ち、積極的に行動しましょう。G-PLUS! で配信される就活情報はスルーするのではなく「熟読する」意気込みでいてください。

【新4年生になる方へ】

「3月会社説明会、6月選考開始」というのが基本的就活スケジュールですが、選考開始は年々早まる傾向にあります。情報は何よりも



就活個別相談大谷さん(キャリア支援センター)



業界研究会

大事。G-PLUS!、ミナトコムからの配信は欠かさずチェックできる体制にしておきましょう。キャリア支援センターは個別対応が充実しています。経験豊富なスタッフが面接の対策を個別で実施してくれたり、就職活動上の個人的悩みなどにも個別で対応してくれます。利用できるものは、すべて利用してください。(歌代)

